

澤井 真著

『イスラームのアダム』(慶應義塾大学出版会、2020年)

おやさと研究所主任

堀内 みどり Midori Horiuchi

著者の澤井真氏は、本誌での連載のように、専門領域をイスラーム神秘主義思想としています。本書は、2部構成になっています。第1部ではアダム神話(アダムが焦点)に焦点をあて、第2部でイスラームにおけるアダムという「人間」についての考察から、アダムという存在を「完全人間」という視座から論を展開しています。ここでは、序で丁寧に述べられた本書へ思いについて紹介しておきたいと思います。

序の冒頭で、「本書は、アダムという存在をめぐる政治的・思想的解釈に注目しながら、イスラーム神秘主義思想の形成をたどることで、宗教学におけるイスラーム研究を批判的に考察しようとするものである」と述べられています。さらに「本書が扱おうとする課題は、近代の宗教言説の展開を射程に入れつつ、イスラーム神秘主義思想がアダムという存在をめぐる、いかに新しい思想を紡いできたかを明らかにすることである」とも記され、イスラームにおけるアダムがイスラーム神秘主義思想の進展や展開の核になってきたということが窺われます。

ところで、序には「宗教研究とイスラーム神秘主義」という題目がついています。この題目が示す視点は、『イスラーム神秘主義』を一つの場として、人間をめぐる知が創り出されていく仕方を考察すること」を示すもので、以下のように続きます。

イスラーム思想史において、神秘主義的側面とみなされる「タサウウフ」(taṣawwuf) やその担い手であるスーフィー(Sūfī) は、九世紀半ばに民衆的運動として始まった。オスマン朝の為政者によって重用されたこともあるが、事あるごとに、神秘主義は、法学者たちによって批判され異端視されるなど、マージナルな位置に追いやられてきた。こうした状況に対して、スーフィーたちは法学者が担う知('ilm) を外面的な知とみなす一方で、神秘主義が担う神秘知(ma'rifah) を内面的な知であることを主張する。

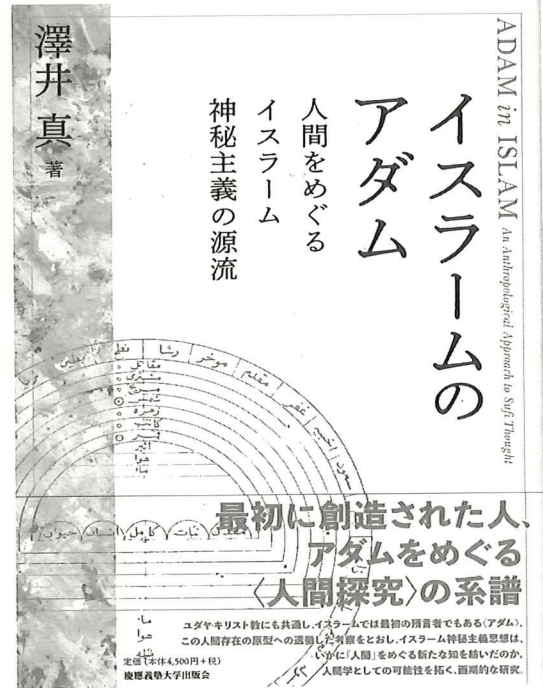
しかしながら、この知的・社会的にマージナルであったスーフィーたちこそが、「知に新しい息吹を与える存在」であり、「アダムへの考察を通して、新しい知をイスラームに埋め込んだ」といいます。

序は、

- 1 宗教学はいかにイスラームを理解してきたか
- 2 宗教学はイスラームをいかに理解すべきか
- 3 スーフィズムからイスラーム神秘主義へ—人間性の探究
- 4 イスラーム神秘主義における人間探究と「体験主義」
- 5 アダムからみた人間

と話題が流れるように展開され、本論の理解を適切にたすけています。イスラームについて宗教学が理解してきたであろうこと、イスラームとは一体何を指してきたのかということ、そして、スーフィズムのイスラームにおける立ち位置や意義、さらに「アダムという存在」が神と人間とを理解するための必然であることを手際よく解説しています。

アダムはイスラームにとっても神によって創られた人間の祖であり、人間の存在の理解は、アダムに付与された特性を通して行われたことに加え、「アダムは神から直接語りかけられたという『体験』」をもち、人間存在の行く末を決定づける場に



居合わせた」ことが指摘されます。この体験への注目が、スーフィーをして、掘り下げたアダム理解が人間理解に直結すると考えさせてくれます。アダム解釈による新たなイスラーム人間論は、信仰者や共同体を新しく意味づけるようになりました。著者は、序の最後で次のように宣言します。

神秘主義者が人間理解を通して目指すのは、神秘的合一によって神を真に知ると同時に、隠された神秘知を体現した完全な人間存在になることである。このとき、神という把握不可能な超越的存在を知ろうとする彼らの前に投げられた手がかりこそが、人間の源流にあるアダムなのである。

イスラームにおける神秘主義の人間学を、アダムをめぐる人間解釈を通して明らかにしようとしたこの試みが、どのように展開されているか知るために、是非、本書の一読をお勧めします。

本書の構成は以下の通りです。

- 序 宗教研究とイスラーム神秘主義
- 第1部 クルアーンの内的意味を求めて—アダム神話とその解釈学的想像力
- 第1章 解釈学的想像力の場としてのアダム
- 第2章 アダム神話の追体験—「原初の契約」に蹴る始源への帰還
- 第3章 イスラームの死生観と人間
- 第4章 名を与えられたアダム—生と死のはざま
- 第2部 アダムにならいて—イスラーム神秘主義哲学における人間
- 第5章 イブン・アラビー学派における存在論的流出論の展開
- 第6章 霊的權威としての完全人間
- 第7章 絶対存在から人間へ—神名の体現者としてのアダム
- 第8章 完全人間論の展開—アダムをめぐる神秘主義の人間学

結

あとがき／主要参考文献／注／人名・著作名索引